

優秀賞（国土交通事務次官賞）

△作文（小学生）の部▽

『ぼくのまちの土砂災害』

茨城県守谷市立黒内小学校 五年 関 悠河

『台風十一号は、次第に沖なわ本島から遠ざかっていきますが、久米島や周辺のり島ではぼう風や強い雨が続いています。気象台は久米島などではぼう風にけいかいするとともに、これまでの大雨で県内各地で土砂災害のきけんが高まっているととしてげん重にけいかいするよう呼びかけています。』

ぼくは家で夕方のニュースを見ていました。

今日は急に雨が降ってきたり、やんだりして、天気が不安定な一日でした。

「よくニュースで『土砂災害』って聞くけど、このあたりでも『土砂災害』のきけんはあるの、お父さん。」

ぼくがお父さんに質問すると、雨の音がどんどん大きくなってきました。ポツポツだった雨がザーッと音を立てていきました。

ぼくの不安そうな顔を見ながら、お父さんはこう言いました。

「家のすぐ近くには『土砂災害』のきけんはないと思うけど、守谷市の中にはきけん区いきがあるかもしれないね。調べてみよう。」

ぼくはお父さんといっしょに、家にあった『守谷市防災マップ』や『防災対策のリーフレット』を広げてみました。インターネットでも調べました。

まず『土砂災害』について。『土砂災害』の種類は全部で三つ。一つ目は「急けいしや地のほうかい」です。けいしやの角度が三十度以上で高さが5m以上という条件があります。二つ目は「土石流」。川がにごって、流木が混ざっています。三つ目は「地すべり」で、しゃ面から水がふき出したり、地面がひびわれたりします。『土砂災害』は、雨が多くふる梅雨の時期や台風の時節、また地しんが起きたときに発生しやすいということがわかりました。

ぼくの住んでいる守谷市には『土砂災害』のきけん区いきが十四か所もありました。ぼくは、数の多さにびつくりしましたが、実際にどういう場所なのかを見たくになりました。

「ねえ、お父さん。守谷の『土砂災害』きけん区いきをいっしょに見に行つてくれない。」

次の日、ぼくとお父さんは『守谷市防災マップ』を持って、車で出かけました。十四か所のうち三か所を実際に見ることにしました。

最初に行つた場所は、つくばエクスプレス線をはさんだ両側にあつて、守谷サービスエリアのすぐ近くでした。細い道をどんどんあがっていき、周りは木がおいしげっていました。木がおおいかぶさつていて、細い道をふさいでしまふような所もありました。高さも5m以上あり、もし大雨がふつたら、とてもきけんだと思いました。

次に行つた場所は、南守谷交番の近くでした。土が高く盛られた土地に木がたくさんはえていました。土の部分が多く、木の根っこがむき出しになっている所もありました。もしかしたら、東日本大しん災のえいきょうもあるのかもしれない。

最後に行つた場所は、「みずき野」という住たくがいです。道路が整備されているところも多いのですが、一番奥の方は草や木がたくさんはえていて、すぐとなりや後ろに民家があつて、ちよつとこわくなりました。

ぼくは今回、『土砂災害』について学んだことが二つあります。

一つは、ぼくの住んでいる守谷市にも『土砂災害』が起こるかもしれないこと。東日本大しん災を経験して、想像できないくらい大きな災害が現実に起こつたので、いつ、何が起きてもあわてないように、日ごろから防災くん練にも真けんに取り組もうと思いました。

もう一つは、地いきの方々とは協力すること。災害が起きたときに、一人では何もできません。リーフレットにも書かれているように、情報を共有し、助け合うことが大切だということを学びました。ぼくも近所の人とは協力し合いながら生活していきたいです。